

島根原子力発電所2号炉 審査資料	
資料番号	EP-060 改 39(説6)
提出年月日	令和2年4月14日

島根原子力発電所2号炉 残留熱代替除去系について (コメント回答)

令和2年4月
中国電力株式会社

審査会合での指摘事項に対する回答

No.	審査会合日	指摘事項の内容	回答頁
1	令和2年2月20日	除熱手段に関する自主対策についても全体像を示すこと。	2

審査会合での指摘事項に対する回答 (No.1)

■ 指摘事項 (第838回審査会合 (令和2年2月20日) RHAR)

除熱手段に関する自主対策についても全体像を示すこと。

■ 回答

残留熱代替除去系が使用できない場合、除熱手段として以下を設ける。各手段は、事故発生約30日後の崩壊熱を除去可能である。

➤ 可搬型格納容器除熱系による格納容器除熱 (図 1 - 1)

サプレッション・チェンバを水源とし、耐熱ホース・可搬ポンプによりサプレッション・プール水を可搬型熱交換器へ供給し、除熱したサプレッション・プール水を原子炉圧力容器へ注水する。

➤ 原子炉補機代替冷却系を用いた原子炉浄化系 (CUW) による原子炉除熱 (図 1 - 2)

原子炉圧力容器を水源とし、CUW補助ポンプにより炉水をCUW補助熱交換器へ供給し、除熱した炉水を原子炉圧力容器へ注水する。

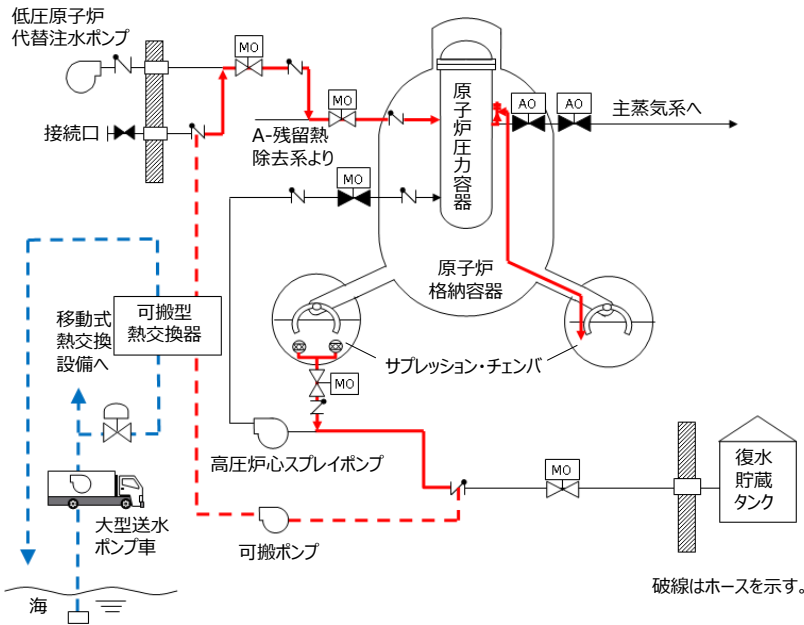


図 1 - 1 可搬型格納容器除熱系による格納容器除熱

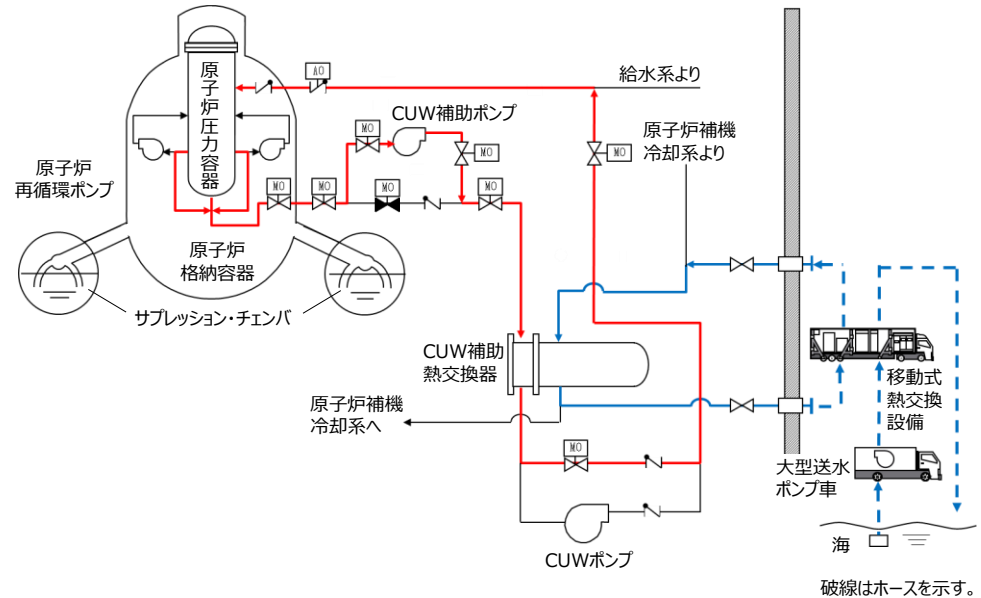


図 1 - 2 原子炉補機代替冷却系を用いた原子炉浄化系による原子炉除熱